

非住宅率10%を突破

構造材加工を上回る伸び

ポラテック

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）のプレカット事業は非住宅木造建築物の取り組みを強化し、構造材加工での非住宅比率を10%以上とする目標を7月度に初めて達成した。7月の非住宅物件は1万2359・4坪で過去最高、前年同月比28・7%増、比率は10・8%に達した。

プレカット最大手の同社は住宅市場の縮小に備え、非住宅物件への取り組みを強化して

%以上にする目標を掲げてきたが、構造材加工実績が拡大するなかこれまで比率10%に達したことはなかった。

7月度は構造材加工11万4860坪（前年同月比4・9%増）、羽柄材加工7万4612坪（同1・0%増）、合板加工5万8874坪

（同5・0%増）、外販受注3505棟（同2・0%増）、外販売り上げ3429棟（同4・5%増）といずれも増加した。そうしたなか非住宅の伸び率は28・7%と大きく、構造材加工実績の伸びを大きく上回った。8月

中には整備がほぼ完了することで、さらなる加工能力の拡大が見込まれている。

ており、社内エンジニアによる投入ロボットの開発も進めている。同社では想定府県別シェア（2カ月前の木

剩設計を最適化したり、他のメーカーと連携してセミナーを開いたりして建築士への提案を進めている。

度（21日以降）も出荷は好調で、当面順調な稼働を見込んでいる。

率化を目指して5月に設置した名古屋工場も順調に稼働している。滋賀工場との生産連携で「滋賀工場は定期配送で名古屋工場まで配送し、名古屋から邸別配送を行うことで、ドライバーからも好評」という。

当月の府県内加工物件で算出）を算出。千葉、滋賀、神奈川、埼玉が2割を超えているのに対し、大阪、兵庫で比率が低い。地域戦略を細かく実施しシェア拡大を目指していく。

工場労働者不足への対策として「ダークミル」の通称で整備を進めてきた富士工場の第2期無人化工場も8月

労働力不足対策として各工場に搬出用ロボットを合計30台配置し

非住宅分野では「ウッドイノベーション」による構造シミュレーションで基礎の過